

人輝く。

春の叙勲 おめでとうございます



瑞宝単光章
後藤 春繁さん (74)
元 美土里町消防団分団長

昭和41年に美土里町消防団に入団し、昭和58年に美土里町消防団班長、平成5年からは美土里町消防団分団長を務められ、34年の永きにわたり、絶えず現場の第一線において消防活動に尽力され、美土里町の消防団発展に寄与されました。



瑞宝単光章
唯杉 知弘さん (80)
元 国勢調査員 (高宮町)

昭和35年から平成22年までに国勢調査員として計11回、世界農林業センサス、農業センサスの調査員を計9回務められ、50年以上の永きにわたり調査に従事されました。地域住民への誠意ある説明により多大なる信頼を得られ、より精度の高い調査資料の確保に貢献されました。

文部科学大臣表彰をW受賞 ～地域が一体となった読書推進の取組～



美土里小学校・みどりの森の絵本館

美土里小学校では、自分の作ったオリジナルバックを図書館へ持参し、借りた本を15冊まで借りる「マイブックバック」の取組や、毎月23日の「文の日」を「ファミリー読書の日」とする家族読書の奨励などが行われています。また、みどりの森の絵本館は、平成9年の設立以降、町内の小学校や保育所等で読み語りを行われており、特に小学校での活動は、学年ごとにテーマを絞った読み語りや「おすすめの本」の配置、6年生の卒業時に本との出会いを大切にしたいという思いを込めた、「オリジナル手作りカード」の手渡しなどが行われています。美土里小学校とみどりの森の絵本館の地域に根付いた長年の活動の功績が認められ、この度文部科学大臣賞を受賞されました。

違う文化から日本を考える

人権多文化共生推進課 ☎4215630

不安なものです！

私が25歳で台北に一人で住み始めて一週間もしない週末、鍵を家に忘れました。財布も家の中。当時は携帯もありません。言葉も分からず、知り合いもほぼゼロ、お金も連絡手段もない。その時の不安や焦燥感は今でも忘れません。この経験があるので、親しい友人もおらず言葉も十分に話せない外国籍市民は、日本でどんな気持ちで暮らしているだろうとつい思います。

技能実習生を仲介する会社で日本語を教えている友人は、ある実習生から友達をつくるためには「日本人にどう声をかければいいのか」「日本人が断る時はどんな返事をするのか」、教えてほしいと質問されたそうです。



また別の実習生は「自分が中国語を教え、相手から日本語を教えてもら

えると言葉も覚え、友だちになれて良いな」と話したそうです。ここには日本に溶け込みたいという実習生の思いが見えます。

溶け込めるよう努力するのは実習生だけではありません。彼らは来日の前と後に日本語や日本の生活習慣等を学びますが、ある仲介会社の経営者は、授業態度の悪い実習生に日本だと体罰と言われるような厳しい指導をしています。会社の信用にも関わりますが、現場に出て苦労するのは彼らだからです。その経営者はまた、派遣先の会社で可愛がってもらえるよう「気遣い」を教え、実習生が頑張ったら会社の人にもそれを認めてほしいと言っていました。

5月の連休中、中国人実習生と考えるグループが街を歩いているのを見ました。当人の努力は当然ですが、日本人を含めた周囲の思いやりによって、彼らが実習期間を楽しく過ごせたら良いなと思いました。

(文) 県立広島大学
上水流 久彦 准教授
イラスト…
ロナルド・スチュワート 准教授



安芸高田市消防本部・安芸高田消防署
TEL 42-0931 FAX 47-1191
ホームページ http://www.akitakata.jp/ja/shisei/section/119/

大雨災害に注意！

これから梅雨の時期に入るとともに、台風の時期にも入ります。昨年8月20日に発生し、74人の方が犠牲になった広島土砂災害のように近年では全国各地で局地的な豪雨が発生しており、これまで以上の対策が必要になっていきます。



自然災害の形態は年々変化しており、今まで被害がなかった場所でも河川の氾濫や土砂災害が発生する可能性があります。災害はいつ発生するか分かりません。いざという時に、落ち着いて行動できるように日ごろから次のようなことに注意しておきましょう。

- ・ 天気予報を確認し、大雨が予想される際にはテレビやラジオ、



インターネットなどで情報収集する(市のホームページからでも確認できます)。

- ・ 緊急時に備えて、貴重品や非常食糧をすぐに持ち出せるよう準備しておく。
- ・ 事前にハザードマップ等を使用して危険箇所や避難場所、避難経路を家族や地域住民で確認しておく。(ハザードマップとは洪水などの水害や土砂災害時に避難する場所や注意すべき箇所をまとめたものです。5月の通知広報で各家庭に配布されています)。



熱中症になりにくい身体を作ろう

また、災害時等に避難場所を開設した場合には、お太助フォンやホームページでお知らせします。

梅雨も終わり、これからより夏らしくなってきました。それと同時に増加するのが熱中症です。熱中症は、夏の強い日射しの下で激しい運動や作業をする時だけでなく、身体が暑さに慣れない梅雨明けの時期にも発生します。

そこで重要となるのが「暑熱順化」です。



暑熱順化とは？

皆さんは「暑熱順化」という言葉をご存知でしょうか。暑熱順化とは、「暑い環境でも体温調節ができるよう、体が暑さに適応した状態」のことを言います。暑熱順化するると、発汗が起りやすくなります。そのため、熱の放出が早い段階で行われるようになるので体温(核心温)の上昇は少なくなり、夏バテや、熱中症を防ぐこと

につながります。

■本来は自然と暑熱順化する

初夏の頃など、急に暑くなる時期に熱中症が多く発生するのはこの暑熱順化がまだできていないためなのですが、日本では通常、夏に向けて気温が徐々に上がっていくので梅雨明けくらいに自然と暑熱順化が成立します。しかし、かつては誰でも梅雨の暑さにより順化してきましたが、冷房のある環境で過ごす人が増えた今は積極的に順化するための対策が必要です。

この暑熱順化を促進させる方法が、積極的に「汗をかくこと」です。手軽に汗をかく方法に、「半身浴やサウナ」、「ウォーキング」、「自転車をこぐ」などがあります。梅雨の終わり頃から、日課として汗ばむ程度の運動を1時間半くらい続けるようにすると、少しずつ順化して体が楽になります。暑さへの耐性を高め、今年の夏を過ごしやすい体にするためにも積極的に汗をかいて体を暑熱順化させましょう。

